

2025年度

宿泊機能を備えた
子どもの居場所事業
「WAKUWAKUホーム」報告書





目次

- 03 はじめに
- 04 WAKUWAKUホームとは
- 05 利用者数及び、内訳
- 06 WAKUWAKUホームのスタッフより
- 07 A君のこと
- 08 WAKUWAKUホームギャラリー
- 11 WAKUWAKUホームについて、利用する子どもたちへのアンケート
- 12 WAKUWAKUホーム、ボランティアスタッフのみなさんより
- 13 WAKUWAKUホーム、保護者のみなさまより
- 14 イベント報告
- 15 おわりに

はじめに

コロナ禍の中、文部科学省のGIGAスクール構想が一気にすすみ、小中学生にタブレットやパソコンが貸与される時代となりました。小学生でもスマホを持っている子どもも少なくありません。

WAKUWAKUホームでは、火曜日と木曜日の小学生の日はタブレットやスマホを使わない日としています。クリエイティブな活動をしてほしいと思っているからです。

他の曜日で、みんながそれぞれにスマホやタブレットを見始めると、交流もなく静かな時間が流れます。数年前までは、テレビの画面にゲームを映してみんなで一緒に、ワイワイ賑やかにゲームをしていました。今はそれぞれが自分の世界で、好きなゲームも違い、パーソナルな時代になったことをひしひしと感じます。

私は、昭和世代なので、子どもの頃は一台のテレビを家族みんなで見ていました。チャンネルの取り合いもしばしばありました。一人ひとりスマホやタブレットをもっていれば、取り合う必要もありません。

もう時代は戻らないと思いますが、子どもたちがバランスよく成長していくために、どのような場を提供していくのか模索が続きます。



(小学生が描いてくれた似顔絵です。)

WAKUWAKUホーム運営統括担当 天野敬子



WAKUWAKUホームとは

宿泊機能をもつ子どもの居場所。利用料は無料である。貧困、疾病、障害、その他さまざまな理由から養育困難に陥る家族が地域に少なくない。市町村の対応窓口においても、児童相談所においても、全国的に児童虐待相談件数は増加の一途をたどっている。対応件数が増えてくると、重篤なケースを優先せざるを得なくなり、予防的介入はしにくくなる。

一方で、調子の悪い時にちょっと支えてくれる人がいれば、ちょっと預かってくれるところがあれば、危機を乗り越えていける家族もある。子どもを住み慣れた地域から引き離すことなく、安全に、地域で見守り育てていくために、地域住民にできることを提供するのがWAKUWAKUホームである。地域住民主体のNPOが、すべての子どものwellbeingをめざして、支援機関と連携しながら、貧困・虐待の連鎖を断つために活動している。

宿泊機能

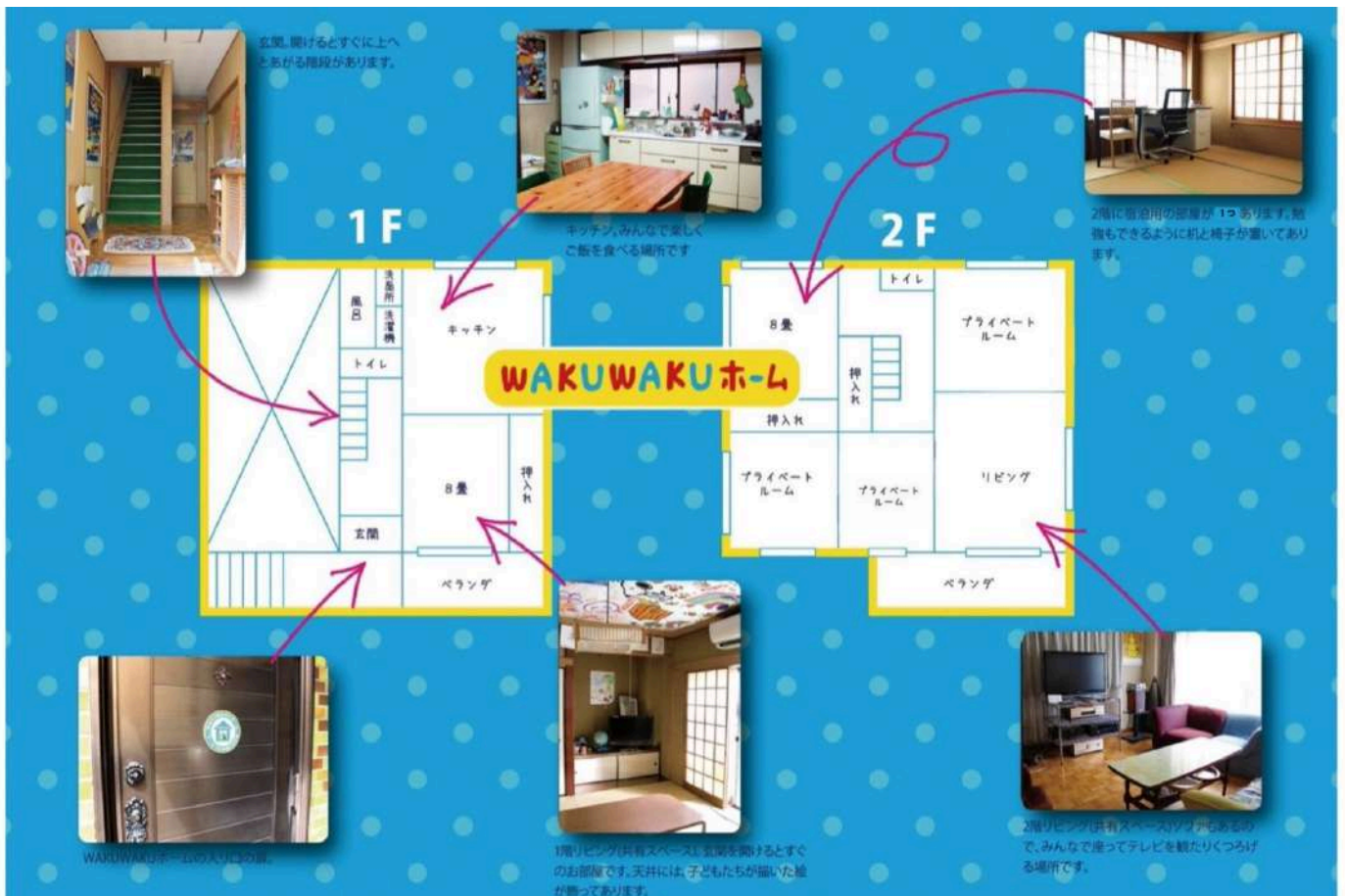
急な出張、緊急入院、今日は鬱で動けない、そんなさまざまな保護者の事情に応じて、柔軟に宿泊対応をしている。家に帰りたくないとやってくる子どももいれば、子どもと距離をとりたいという親もいる。必ず保護者の了承のもとにお預かりしている。

居場所機能

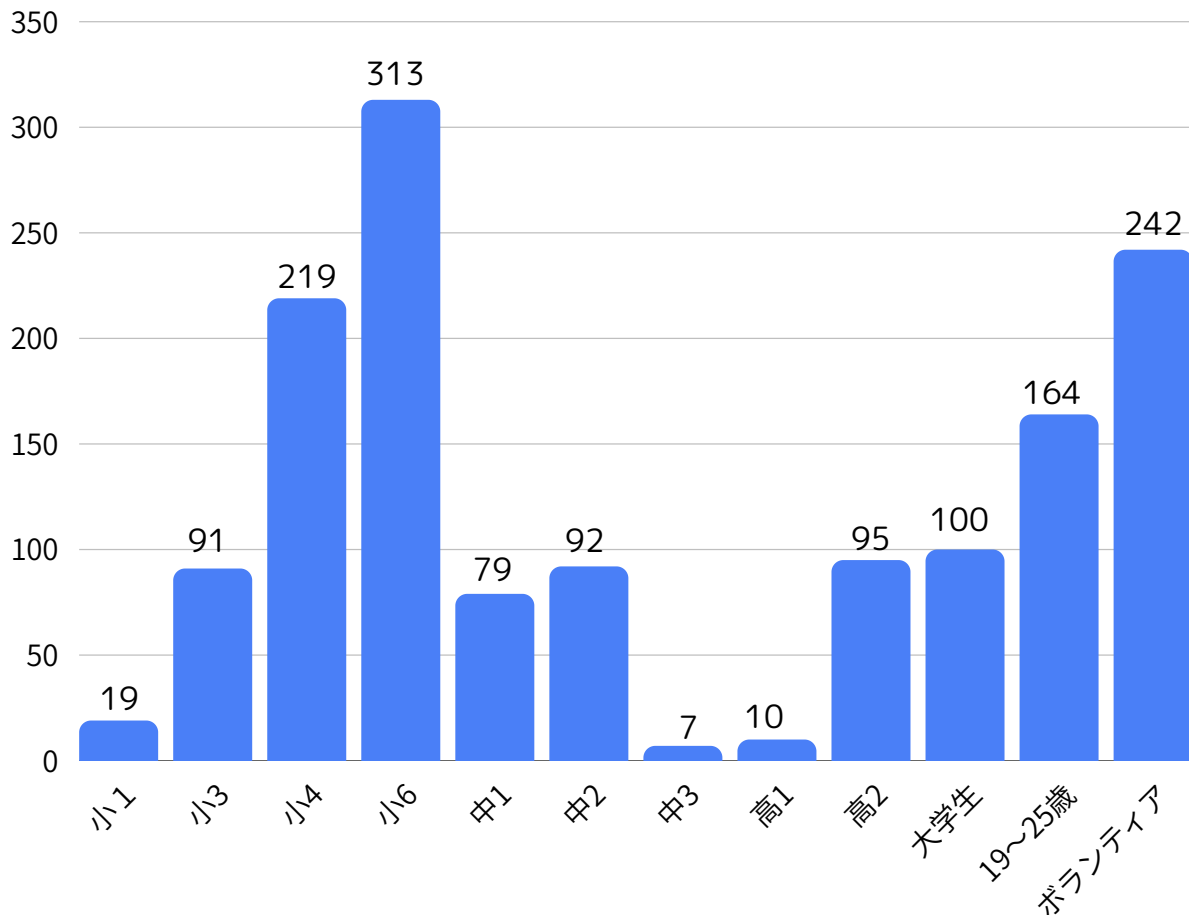
火曜日から土曜日までは、ホームをオープンにしている、地域の子どもたちが遊びに来る。サポートしてくれる学生ボランティアや地域のボランティアさんがいる。

相談機能

子どもと保護者の相談に随時応じている。



年間利用者数(宿泊者数の参加人数を除く) 延べ1431人



月別宿泊利用者数 延べ193泊

4月	5月	6月	7月	8月	9月
7泊	1泊	2泊	15泊	6泊	2泊
10月	11月	12月	1月	2月	3月
4泊	10泊	34泊	35泊	33泊	44泊

WAKUWAKUホームで行っているグループ活動

シンママおしゃべり会 (奇数月の第二日曜日)

シングルマザーさんが集まって、気楽におしゃべりをしています。シンママ同士だからこそ共感できることがたくさんあります。毎回4~5名程が参加しています。

不登校の親の会 (偶数月の第二日曜日)

共通の悩みをもつ者どうしなので、共感的受容的にお互いの話を聴くことができ、エンパワメントされて帰っていかれます。毎回4~5名程が参加しています。

馬橋 はな (火、水、木、土曜 勤務)

ホームのスタッフになり3年が経ちました。私がスタッフになった年からホームにいる子どもたちがすくすくと成長しています。子どもが成長することは当たり前のことですが、その過程を肌で感じるのは初めてのことです。ついこの間までランドセルを背負っていた子どもの制服姿を見た時、突然子どもから大人になったような、そんな不思議な感覚に陥りました。

さて、最近子どもたちは何かを楽しみにしてホームに来ているようです。以前までは、こちらから「〇〇しよう！」と仕掛けていましたが、今では外でたくさんの楽しそうなことを見つけ、自分たちで“楽しみ”を作ってやって来ます。

その子どもたちの“楽しみ”を叶えるために日々奮闘しています。

一緒に楽しみの材料を買いに行った時、子どもたちがワクワクした顔で、「ミニ家族みたいだね！」と私に言いました。私を残して前を走りながら、何度も嬉しそうにこちらを振り返ります。子どもたちにとって、既に楽しみが始まっているようでした。

日々さまざまな困難と向き合う子どもたちですが、ホームにいる間は平和なひと時を過ごしてほしいと思っています。

何気無い日常と、楽しみを話すあの眼差しを守り続けていきたいです。



石平 晃子 (金曜 勤務)

週に一日だけ、ホームのスタッフとしてここにいます。

木曜日の夜か金曜日の朝に、「夕飯は何を作ろう？」と、子どもたちの好き嫌いと自分が作りたい料理をすり合わせるところから、ホームの仕事が始まります。子どもたちが来るまでに作り終えることもできるのですが、あえて来る時間の頃にまだ料理をしているようにしています。自分が子どもの頃、台所であちを向いて料理をしている親の後ろで、みかんでも食べながらだと話しやすかった感覚が残っていて。あるいは、すり鉢を渡されて「ゴマ擦ってこない？」と頼まれるのが案外嫌ではなかったことが思い返されるので。

とって、子どもたちは何か頼んでも「いや、大丈夫」と噛み合わない返答でさりとりすり抜けていき、好きなプチトマトはつまんでいくといった調子ですが。

でも、こんなキッチンの距離感が好きです。

食事時とはまた違い、手元を見ているから向き合なくていいのだけど、作っている間必ずそこにいる安心。

私は私で、たくさんの量を時間までに作ろうとしているゆえの軽い高揚と、だんだん料理ができていく達成感をもらっています。

どんなに栄養バランスのよいご飯でも、買って食べるのとは違う見えないエネルギーがキッチンにはありそうで、それを私が独り占めするのはもったいないので、だからいつも出来上がるのはギリギリの時間！決して、作業が遅いことの言い訳ではありません！！



A君のこと

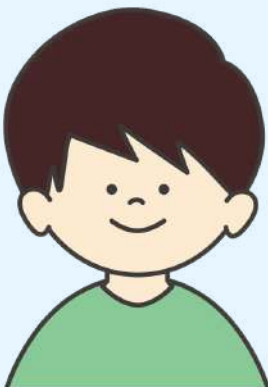
A君は特別支援学校高等部3年生のときに、1年間、WAKUWAKUホームで預かりました。お母様が緊急入院され、入院が長期にわたったからです。彼が一人で生活していることを学校が知り、あわてて、私のところに電話がありました。障害があり一人で生活できる力がないからです。その後、児童相談所と話し合い、里親として措置していただきました。

A君は、特別支援学校卒業後、特例子会社に就職することができました。社保付きでお掃除の仕事をしています。WAKUWAKUホームを出たあとは、通勤寮で3年間過ごし、今はグループホームにいます。いずれもホームから近いところです。そして、毎土曜日、ホームにやってきます。

放課後等デイサービスという制度ができて、障害のある子どもたちの放課後の居場所が保障されました。特別支援学校或いは特別支援学級まで車で迎えに来てくれて、帰りは家の方まで送ってくれます。この制度ができたことで、障害児の放課後が豊かなものになり、保護者も安心して仕事を継続することが出来るようになりました。

しかし、大人になった障害者の余暇支援はまだまだこれからです。就職しても、学校と同じくらの16時には終わります。一人で街をふらふらすると危険なことも多いので、家と職場を往復するだけの生活になりがちです。

お母様はその後退院されて、元気に過ごしておられたのですが、また再発し、昨年、亡くなりました。A君には成年後見人がつき、ケアマネージャーさん、グループホームの世話人といった支援者がいます。そして、何より、土曜日にWAKUWAKUホームにきて、スタッフや子どもや若者と交流することが出来ます。A君が帰るときにお決まりの儀式があります。「自分の靴がどれか分からない」と言ったり、ドアのカギ穴から外を覗いたり、一通りのギャグをやった後に笑いながら帰っていきます。帰りたくないA君の気持ちに付き合いながら、この時間を過ごします。長いときには15分。スタッフやボランティアさんに見送ってもらうこの時間がA君は大好きなのだと思います。そして、もう6年間繰り返されている『A君劇場』で私も癒されています。(天野)



た後に笑いながら帰っていきます。帰りたくないA君の気持ちに付き合いながら、この時間を過ごします。長いときには15分。スタッフやボランティアさんに見送ってもらうこの時間がA君は大好きなのだと思います。そして、もう6年間繰り返されている『A君劇場』で私も癒されています。(天野)



夕飯を共に過ごす



みんなで調理に参加



クリスマス、やハロウィン、お正月
季節の行事もみんなで楽しめます。



誕生日にケーキを作ったり、
メントスサイダーをしたり



みんなで、いろんな遊び



それぞれが、自由に過ごせる居場所

火、木は、主に小学生が利用し宿題や工作、ボードゲームなどをして遊び、水、金は主に中高生、土曜は若者も利用し、TVゲームや勉強などをして自由に過ごしています。いずれの日も夕飯を共にすることを大事にしています。



Q1.WAKUWAKUホームはあなたにとってどんなところですか？

好きなものを好きなように出来る場所。他にも、色々な人と話したりして、自分らしく出来る場所だと思っています。

WAKUWAKUホームは、私にとって安心できる大切な場所です。周りの人たちはとても親切で、わからないことがあれば丁寧に教えてくれます。また、困ったときには支えてくれるので、とても心強いです。WAKUWAKUホームは、安心して出来る温かい場所だと思っています。

いろんなカードゲームやいろんなことしちゃうせてきておもしろい場所

音楽を皆で聴いてくれるのは楽しい
昼間と夕方話すのが楽しい(仕事やプライベート)の話

テレビでえがかいてるゲームやカードゲームのやりかたを教えるところ

人とのコミュニケーション力を学べる
人と関わりあうの楽しさを
教えるところ

心の支え

やさしく、ほめてくれる人がたくさんいて、みんなが仲良く話せる場所

おちつけて、みんなで遊んで、たのしい所

皆でご飯を食べたり、話したりして
家や学校とは違う居場所と見えています。

Q2.WAKUWAKUホームで印象に残っていることは何ですか？

ホームでなかよくなった子とゲームをしたり、スタッフさんと音楽を楽しんだり、カラオケセットをよんでくれて一緒に歌ってくれたりしたこと。お話をきいてくれたこと。

みんなでご飯を食べたり、みんなでゲームなどをして、みんなで楽しんでいるところ

たまに、だまかみ誕生会にお祝いしたり、おるので、良いねと思っています。
色々な年齢の人が来たら皆と仲良く話したりゲームをみんなでしたりできるのでとても好印象です。

とか、花さん、天野さんなど、やさしい大人がいて、たのしくすごせること

はじめのとき、クリスマスパーティー、10月11日パーティー

みんなでご飯を食べたり、一緒に勉強したりした時間です。ご飯の時間は楽しい雰囲気、自然に会話が出来ました。勉強があからぬところがあると周りの人が優しく教えてくれることが印象に残っています。

皆でゲームをしたり、誕生日のお祝いをして、たのしいことが印象に残っています。

かいたゲームで遊ぶのが好き

みんなで餃子を食べたことです。
途中で形を変えて包んでみたりして、みんなではしゃぎながら作ったのが楽しかったです。
他にも、焼きマシマシの作りかたなど、おじいちゃんに話を聞いたりして、色々なことを学ぶことができて、印象に残っているのはみんなの笑顔が印象に残ります。

天竺の絵画をみんなでかいたこと。

※現職員の氏名のみ掲載しています。

ホームでのボランティア活動に大学2年生のときから参加し、とても楽しく過ごすことができました。活動の中でも特に印象的だったのは、さまざまな年齢層の子どもたちと関わることができた点です。年齢が違うことで話題の幅も広がり、自分の知らなかったことやその年代で流行しているものなどを聞くことができ、とても新鮮で興味深かったです。普段の生活ではなかなか得られない交流であり、多くの刺激を受けたと感じています。

夕食はたいてい一人で食べることが多く、10人以上で何かをすることがあまりなかったのもとても楽しいひと時でした。

またホームの雰囲気も強く心に残っています。初めて訪れた際はうまくなじめるか不安や緊張がありましたが、子どもたちやスタッフの方々が気さくに声をかけてくれたおかげで、次第に自然と会話ができるようになり、安心して活動に参加することができました。(U)

2021年2月から、WAKUWAKUホームの活動にボランティアとして参加し、2025年度で丸5年になりました。

2025年度は火曜日を担当し「夕食づくり」を中心に子どもたちと一緒に時間を過ごしました。子どもの5年という時間は大人の時間とは違い、外見も内面も見違えるほど成長するということを痛感した1年でした。数年前に1年生からホームにきた少女が、今年は先輩として1年生を迎え入れてお姉さんになった姿に感動。夕食を作っていると、多くの子どもが「お手伝いするー」と一緒に料理や盛りつけを経験して喜んでいる姿に成長を実感。私にとって一番大変な献立づくりは、給食のメニューを教えてくれたり、みんなで考えて助けてくれる子どもたちの姿に幸せを感じました。

WAKUWAKUホームは、子どもたちが安心して時間を過ごし成長する居場所であり、私たち大人にとっては外から見ているだけでは分からない、気づきや感動を与えてくれる場所だということを強く実感した1年でした。(A)

一つ前のクリスマス時期、WAKUWAKUホームはじめましてのみんなと、ケーキと一緒に飾りつけたのが非日常のような始まりでした。

その後は何気ない平日木曜の放課後、こちらから輪に意識して入らずともウェルカムな子ども達の社交性に驚かされました。私がむしろワクワクさせようと張り切るのではなく、彼らのエネルギーを分けてもらう場所のような感覚にさえなっているのかもしれない。

工作に熱中する子どもが何度も披露してくれたり、一緒に踊ったり撮影しようと仲間に入れてくれたり、ご飯美味しいと褒め言葉をいただいたり。ホームでの喧嘩、家庭で嫌なことがあっても集まれる場所があって、軌道修正して行く彼らの様子をあたたかく見守りたいです。(M)

WAKUWAKUホーム 保護者のみなさまより

親子ともにWAKUWAKUホームにお世話になっております。子どもと楽しく遊べるイベントから住居や職場に関することまで、幅広く相談にのってもらっています。鍵を忘れた等ちょっとした出来事でもホームに一時的に行ってもらうなど、日常的に自然な居場所になっています。親と子のちょうど中間世代のスタッフさんに関わっていただけるのも、とても有難いです。育児疲れ等で宿泊もしていただけているし、私自身のリフレッシュにもなります。

いつもお世話になってます。

楽しく遊べる、お泊まり出来るという預かっていただけるだけでもとても助かっていますが、困った事があったり、親子で煮詰まったりして夜遅くの時間に駆け込んでも、いつでも迎えてくれる安心出来る所です



NPO法人プログラミング教育研究所理事長の伊藤功一先生が、2023年9月より毎月第三木曜日にプログラミング教室を実施してくださっています。



月一回、アイスのご寄付で子どもたちは大喜び！



年4回、ピザーラ様のご寄付でピザが届きます！

WAKUWAKUホーム報告会～宿泊機能をもつ子どもの居場所～

2025年11月9日（日）14:00～16:00 IKE・Biz第3会議室にて、WAKUWAKUホーム活動報告会を実施いたしました。参加者は、会場38名、オンライン40名、計78名となりました。

第一部では、ホームスタッフの馬橋はなと石平晃子より、日常の様子を写真や動画を駆使して分かりやすく伝えました。子どもが生き生きと活動する様子がリアルに報告されました。

第二部では、子ども家庭部子ども若者課長安達絵美子様より、「豊島区の子ども・若者の居場所施策」について発表していただきました。現在進行中のUR都市構想と連携した居場所づくりにつきましては、皆さまの関心も高く活発な質疑応答となりました。

また、WAKUWAKUホーム運営統括の天野が、「居場所の力が子どもを変える」と題し、宿泊の中でも長期に預からざるを得なかった子どもなど、3つの実例を通して、安心していられる居場所の中で子どもが成長していく様子を語りました。参加者からのアンケートを拝見して、WAKUWAKUホームの意義を理解してくださると共に、たくさんのエールをいただきエンパワメントされました。

ご来場の皆様のご協力により20,000円が集まりました。温かいご支援に感謝申し上げます。

イベント資料

地域の子どもを地域で見守り育てる
～「WAKUWAKUホーム」2025活動報告会～

NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク



WAKUWAKUホーム
～泊まれるお家～(親戚のお家)

- ・地域の子どもを地域で見守り育てるための一時的な預かり場所
- ・2017年4月開始

宿泊機能 相談機能 居場所機能

居場所機能

※利用人数(宿泊人数)最大値 日4015人

火曜～土曜 14時～21時

【火】【木】小学生中心
【水】【金】中・高校生中心
【土】若者の日

食の支援
学習支援 遊び支援

宿泊機能

様々な事情に応じて宿泊対応。保護者の了解のもとお預かりしている。

利用宿泊規模数 日4175泊

4月	5月	6月	7月	8月	9月
4人	1人	3人	4人	0人	2人
34泊	31泊	34泊	35泊	0泊	3泊
10月	11月	12月	1月	2月	3月
4人	4人	1人	2人	2人	5人
5泊	8泊	1泊	3泊	7泊	14泊

相談機能

保護者や子どもの相談に随時応じています。下記のグループも実施しています。

シンママおしゃべり会
(奇数月の第二日曜日) 毎回4～5名程度参加。
シングルマザーさんか集まって、気遣いおしゃべり。
シングルマザー同士だからこそ共感できることが沢山あります。

不登校の親の会
(偶数月の第二日曜日) 毎回4～5名程度参加。
共通の悩みを持つ者同士なので、共感的・受容的にお互いの話を聞くことができ、エンパワメントされています。

WAKUWAKUホームの必要性

- ◆自分らしくいられる
- ◆やりたいことが出来る
- ◆異なる年齢と関わり、兄弟の様な仲になる

貧困・虐待の連鎖から **おげっかい** の連鎖へ

WAKUWAKU

おわりに

WAKUWAKUを立ち上げた頃、一人の女の子が地域から去りました。父子家庭さんでお父さんが病気で入院され、とうとう亡くなってしまいました。地域には女の子におせっかいするオバサンたちが複数名いて、一緒に生理用品を買いにいたり、夕飯を共にしたりしていました。地域で見守り育てたいという私たちの願いはかなわず、修学旅行だけはと一時保護所から参加し、帰ってきて校庭に並ぶ女の子に声をかける間もなく、都児童相談所が連れて行ってしまいました。遠くの施設に措置され、どこの施設かも教えてもらえませんでした。WAKUWAKUホームをつくりたいという思いの原点には、この出来事があります。

今年度、WAKUWAKUにつながっている中学生の母親が急逝しました。本人も周りもあまりにも急な出来事だったので、本当にびっくりしてしまいました。大変な最中であろうに、いつも通りWAKUWAKUホームにやってきて、「WAKUWAKUホームで暮らしたい」と私の目をまっすぐ見つめて彼女は言いました。豊島区児童相談所からも依頼がきました。これまでの実績と信頼関係があったからこそ、今度は児童相談所も彼女の気持ちを尊重してくれました。今、彼女は地域から切り離されることなく、同じ中学校に通い、元気に部活動にはげんでいます。

WAKUWAKUホームのような場が地域が増えてほしいと思います。地域のたくさんのおせっかいさんが関わることで、その子らしい豊かな人生を歩んでほしいと思います



WAKUWAKUホーム運営統括 天野敬子

(小学生が描いてくれたイラストです。)



みんなが帰ってこられるHOMEになれば
そんな願いを込めて・・・



WAKUWAKUホームは、令和7年度豊島区補助金の交付を受けて運営しました。

野村不動産ソリューションズ株式会社様、特定非営利活動法人ドリームフォーキッズジャパン様、
株式会社東京スター銀行様よりご支援を受けています。



認定NPO法人

豊島子ども

WAKUWAKU

ネットワーク

団体名	認定特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
住所	〒171-0014 東京都豊島区池袋4丁目24番3号 武川ビル2階
TEL	050-5526-1229 受付時間:10:00~17:00 (水土日祝日を除く)
E-mail	info@toshimawakuwaku.com
Webサイト	https://toshimawakuwaku.com